

令和3年度第2回下田地区協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日 時 令和3年7月20日（火） 午前10時00分～11時15分
場 所 産業開発センター 201 会議室

●出席委員（◎会長、○副会長）

渡辺 定一 小浦方正美 坂井 利彦 ○日下部正典
◎清水 昭 五十嵐愛子 目黒 俊治 西潟 芳博
西川 亙 近藤 昌志 小浦方文之 横山 梓（12名）

（欠席委員）

坂井 英樹 堀江 ユミ （2人）

●出席者

市民部長 藤井 勲 経済部長 渡辺 一美 地域経営課長 小島 孝也
商工課長 片野 義孝 下田サービスセンター長 長谷川 考基
地域経営課 課長補佐 新田 泰章 係長 高野 晶文 主事 大澤 諒祐
下田サービスセンター 総務グループ長 坂井 公洋

●傍聴者

なし

●報道機関

なし

●内 容

1 開 会（午前10時開会）

2 議 事

(1) 三条市過疎地域持続的発展計画（案）について

（地域経営課長 説明）

資料No. 1・2により三条市過疎地域持続的発展計画（案）について説明

～質疑～

（清水委員）

資料No.2、31 ページの地域文化の振興等について、下田地区には掘り起こせば、伝統文化

等がたくさんある。そのような伝統文化を夏まつり等で披露する場があると下田の魅力がより広げられるのではないか。

(横山委員)

道心坂の工事状況等が市民に伝わっていないので、しっかり伝えてほしい。

下田地区には、奥入瀬溪流に負けない素晴らしい溪流があるのでPRしてほしい。

農業、酪農、林業関係の学校を建設あるいは、姉妹校を誘致してほしい。

下田地域の素晴らしさを子どもたちに伝えるため、学校教育に郷土教育を入れたらどうか。地域の各集落センターにも伝言板を設置することを検討してほしい。

(小浦方(文)委員)

計画対象地域は下田地域全体であり、計画の分野も幅広いものとなっているが、どの分野に重点を置いていくのか、償還期間、予算規模はどの程度になるか。

(地域経営課長)

償還期間は事業によって違う。どの分野に重点を置いて取り組んでいくかという点については、主に農業や観光の振興と考えている。また、人口減少対策にも注視していく必要があると思う。本計画は各分野の計画を集めて作った計画であり、今後計画を進めていく中で、必要に応じて見直しを行っていききたい。予算規模については、令和3年度では、ハード分野では、8,900万円、ソフト分野では6,900万円程度を見込んでいる。

(小浦方(文)委員)

地方交付税で7割を国が負担し、市の負担が3割であれば、もっと大胆に計画を進めてもらいたい。

(地域経営課長)

関係部署と相談し、地域に有利な形になるよう事業に取り組んでいきたい。

(目黒委員)

資料No.2の30ページ中に「人が一つのテーマによってつながるテーマ型コミュニティも形成されている」とあるが、具体的にはどのようなコミュニティが形成されているのか。

(地域経営課長)

具体的に説明できないが、趣味等を通じて集まって形成されたコミュニティであり、市としてはこのような団体に対して支援を行っており、このような団体も増えてきている。

(近藤委員)

本計画には、市町村計画しか記載されていないが、国県道の整備などの事業はどのようにして県の計画に盛り込まれるのか。

(地域経営課長)

建設分野の職員がいがないため、具体的な説明はできないが、おそらく土木、建設の要望を通じて盛り込まれていくものと捉えている。

(近藤委員)

八十里越開通に伴い大型トラックの通行が増えるということで、国道 289 号線沿いの荻堀地内の歩道整備を行っているが、第 1 回下田地区協議会で五十嵐委員の発言にあったように荒沢地区の白鳥の郷公苑の前の道路が狭く、歩道も整備されておらず、危ない箇所がある。バイパス整備が望ましいと思うが、地権者との話し合いや、予算の問題もあるので、何らかの整備を行っていただきたいという要望を県のヒアリング時に挙げていただきたい。

現在、県道見附下田線の長沢地内で整備が行われているが、駒込地内から見附市に至るまでの道幅が狭い。通勤等で利用する人も増えているが、冬場は相互通行が難しいので、県へ整備の要望を挙げていただきたい。

資料No.2 の 13 ページ中の林道の振興について、林道整備という文言の記載があるが、具体的な計画が掲載されていない。林道麻布鹿峠線は舗装されていないため、四輪駆動の軽トラック程度しか通行ができない。大きな車が通行できなければ、林業事業はできない。舗装整備の要望をしていたが、県の財政事情により、4 年前から事業が凍結されている。他にも林道が未舗装の部分があると思うので、この計画の中で舗装整備を行えるよう努力いただきたい。

資料No.2 の 19 ページの市道の整備計画は、各集落から要望があったものを掲載していると思うが、かなり前（当時下田村）に牛野尾谷地区の県道が行き止まりだったため、葎谷から大谷へ抜ける道を当時村道として認定して、将来的に迂回路として整備したいという計画があった。災害時の避難等のためにも実現可能か否か検討していただき、本計画に盛り込んで整備してはどうか。

(地域経営課長)

いただいた御意見は関係部署に伝えて、過疎債の活用の検討に利用させていただきたい。

(清水委員)

県道見附下田線の駒込地内から見附市に至るまでの道路の拡幅は決まったらしい。

(渡辺委員)

この過疎債の対象は下田地区全域が対象となったという認識でよいのか。要望を挙げれば、全て受け入れられるということなのか。少しでも活性化ができる対策としていただきたい。農地関係で農林土木事業が厳しくなっているということを聞いているが、過疎地ということで、何か対応ができるのか。

(地域経営課長)

過疎計画は下田地域全域が対象となる。過疎対策事業債は元利償還金の 70%を交付税措置としているのに対し、辺地対策事業債は元利償還金の交付税措置は 80%であることか

ら、辺地計画の対象となる地域には辺地債を、そうでない地域には過疎債を使って有利に事業が進められるよう考えていきたい。

各集落からの要望が全て受け入れられるのかということについては、過疎地域の持続発展に資する整備等を優先して考えていくことになると思う。農林土木事業に関しても同様の考え方になると思う。

(横山委員)

コロナ禍の中で、修学旅行先を下田地区にも持ってこられるとよい。

(小浦方(正)委員)

下水道の加入率の状況はどのくらいか。ライフラインの一つとなる都市ガス整備ができれば、下田地区に来やすくなると思う。

(地域経営課長)

令和2年度時点の下田地区の公共下水道の普及率は55.7%となっている。都市ガスの整備に関する御提案については関係部署に伝えたいと思う。

(西潟委員)

限られた予算の中で、十分な効果を上げようとしていることは分かるが、予算が少ない気がする。地域の活性化には、子供達の地域参加が必要だと思う。合併後、地区外の学校へ通う子供もおり、そういう子供は、小学校6年間、中学校3年間は地域との関わりが全く無くなってしまい、将来を考えると厳しい感じがする。大浦地区は下田地区の入口であり、入口として何かできないのか。五十嵐川は子供たちがすぐに遊べる環境ではないため、川と親しめるような施策があればと思う。五十嵐川を中心として国道289号線も通っていることから、もう少し「あつ」と思う環境にしたら魅力も出るのではないか。そのためには、子供たちや若い世代の力が起爆剤になると思う。いろいろな企業があるが、災害時等を考えたときに、地域に密着した企業があった方がよいと思うので、地産地消ということ十分に考えた施策を行っていただきたい。本来であればJAや市が行政主導型で地域の農業をどうするか考え、取り組んでいくべきだと思う。現状では農業を行っていくことは非常に厳しい状況である。地域全体で考えていかなければ解決できないと思う。

(清水委員)

皆さんから出た意見を参考にしながら、計画(案)に基づき計画の策定を進めていくということでしょうか。

(異議なし)

(2) その他

(地域経営課長)

これまで、毎年、下田サービスセンターと地域経営課では、集落座談会を行ってきた

が、今年度はステップアップして、地域の皆さんから客観的に地域の現状を知っていただくこと、広く意見をお聞かせいただく機会として取り組もうと検討を進めているところなので、承知いただきたい。

3 閉 会（午前11時15分閉会）